

福井支部ニュース

2025年度 第1号

日本科学者会議福井支部

連絡先: 山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆報告 JSA福井支部第55回定期総会の概要 (山根 清志)
- ◆JSA 北陸地区シンポジウム2025in 石川に参加して (藤野間 幸英)
- ◆土竜時評 PFAS(ピーファス)ってなに? (土竜 百聞)

【報告】JSA福井支部第55回定期総会の概要

2025年5月10日(土)午後2時から福井県教育センター4階ホール(ZoomとYouTubeの併用)で、JSA 福井支部定期総会&畑明郎氏講演会が開催された。すなわち、前半の午後2:00~3:35が記念講演と質疑応答で、休憩の10分を挟んだ後の3:45から引き続いてJSA 福井支部定期総会が行われた。

(1) 記念講演会

前半の記念講演に関しては、講演者の畑明郎氏の紹介を山本富士夫代表幹事がおこなった。畑氏の演題は、「PFAS(有機フッ素化合物)汚染を考える」であった。講演は、パワーポイントの181枚に及び縮刷スライドを、9枚/頁ずつコピーして作成された20頁を超える膨大なプリント資料を使用しつつおこなわれた。講演には、対面、オンラインいずれかの形態でトータル31名が参加した。

(2) 定期総会

後半の福井支部第55回定期総会は、はじめに山本雅彦事務局長から由田昭治会員に総会議長をお願いしたい旨提案がなされ、拍手で承認された。以下、由田議長のもと、次第に沿って議事は進められた。

議案の審議は、まず、次の順で行われた。

- ・第54期(2024年度)活動報告
- ・決算報告
- ・第55期(2025年度)活動計画
- ・予算

活動報告、活動計画については、山本事務局長が報告をおこない、決算報告、予算に関しては伊藤担当幹事がおこなった。なお、会計監査報告が会計監査委員の寺岡英男会員からなされた。

次いで、

- ・次期役員(幹事)の提案
- ・日本科学者会議第56回定期大会議案の審議
- ・定期大会代議員の選出

について山本事務局長から提案され、特段の意見・質問は出なかった。

ここで由田議長の任務が終了し、議長解任。最後に、山本富士夫代表幹事が閉会の挨拶をおこなって、第55回定期総会は終了した。

(3) 第1回幹事会

総会終了後、その場で第55期(2025年度)第1回幹事会が開催された。任務分担は前期(第54期)と同じとする提案を了承した。

すべてが終わったのは午後4:55、対面ないしオンラインで参加したJSA 福井支部会員は、計13名であった。

(山根清志)

日本学術会議の変質化をねらう「法人化」法案を撤回せよ!

[報告] JSA 北陸地区シンポジウム 2025in 石川に参加して

4月26日、金沢で開催された「北陸地区シンポジウム in 石川」に参加しました、報告者の一人としてその概要等を述べたいと思います。

私自身はシンポジウムで報告をするということは当初、全く考えていませんでしたが、能登研に参加し、山本富士夫先生の勧めもあり、今回、報告者として参加しました。

1. シンポジウムの概要

今回のテーマ「能登復興への展望と課題」と題し、実行委員長の木綿隆弘氏（金沢大学・石川支部事務局長）の進行で、特別講演と富山・石川・福井各支部から3名が報告。

特別講演として武田公子氏（金沢大学）が、人口流出が問題となる中、避難一仮設一再定住と人口移動の現況を詳細に検討し、「コミュニティ単位の仕組み」および「個別の相談支援」の必要性を提言されました。

一般講演で井上英夫氏（金沢大学名誉教授）は「住み続ける権利と健康権・医療保障」と題し、日本では災害時の人権が奪われていること。誰が保障すべきか、国と自治体だということを力説されました。私も「公助」という言葉には違和感がありましたが、「自助・共助・公助という捉え方は間違ってる！」「憲法97条は人権のために戦いなさいと言っている！」という先生の話に共感しました。

安江健一氏（富山大学）はオンラインで、今回の能登地震は「国内の観測史上最大の内陸地震」であること、引き続く「奥能登豪雨」とともなう地形変化も紹介され、生活への影響について報告された。

最後に私が「能登半島地震を考える一事前の備えこそー」と題して話題提供させていただきました。

2. 今回私が参加したのは？

報告に入る前に、今回参加した私の思いを述べた。ひとつは能登地震が発生して3カ月、昨年4月に財務省が、復旧・復興にあたっては「集約的な街づくりやインフラ整備の在り方」の検討が必要と(?)。6月にも土屋復興大臣(当時)も人口減少、財政状況踏まえ「集約化」の考え表明(?)。

日本科学者会議JSA 北陸地区シンポジウム2025 in 石川

メインテーマ: 能登復興への展望と課題 ～能登半島地震と豪雨災害から見てきたもの～

日時: 2025年4月26日(土) 13時20分～16時50分

会場: 近江町交流プラザ4階 集会室 (〒920-0907 金沢市青草町88)

対面&オンライン(Zoom)参加費: 無料

Zoom参加の方は、以下のURL、または右のQRコードにアクセスし登録して下さい。
<https://us06web.zoom.us/join/register/SJ97U9FiTUybWqomjd7pw>



石川県ホームページから

◆特別講演

◎能登多重災害からの復興への課題

講師: 武田 公子(金沢大学 人間社会研究域 客員研究員)

◆一般講演

①能登半島地震と「住み続ける権利」の保障

講師: 井上 英夫(金沢大学名誉教授)

②奥能登で発生した地震と豪雨に伴う地形変化と生活への影響

講師: 安江 健一(富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科・准教授)

③能登地震から学ぶ ～「事前の備え」こそが唯一の対策～

講師: 藤野間 幸英(技術士(建設部門))

◆趣 旨 2024年元日に発生した能登半島地震、復旧が進まない中9月に発生した豪雨災害でさらに多くの方々が被災し、家屋だけでなく生業も失われています。本シンポジウムでは、過疎地域で発生した災害から見てくる様々な課題(食料・農業・インフラ・公共サービス・福祉・介護・医療・原発・エネルギー・教育・避難計画・被災者の権利・液状化等々)を再認識し、創造的復興に向けた新たな取り組みについて皆さんと考え、議論します。

主 催: 北陸地区シンポ実行委員会(JSA 石川支部・福井支部・富山支部)

連絡先: 実行委員長 木綿隆弘(石川支部事務局長)

電 話: 090-1390-6979 E-mail: kiwata@se.kanazawa-u.ac.jp

カンパのお願い: 郵便振込口座番号 00750-4-22786

いま「能登で暮らし続けたい」という住民の願いに対し、過疎で非効率だから「故郷を捨てて出ていけ」と言わんばかりの政府の姿勢。これはおかしいと怒りが湧いたこと。

二つ目に、あの神戸の地震から 30 年、何も変わっていない？当時 JSA の調査団に参加し、灘駅から三の宮、ポートアイランド。「震災の帯」の中を歩きその惨状に唖然と。「技術者」としてどっぷりと「耐震神話」に浸かっていた自分に愕然とした。いらい神戸の街を何度か訪れ、9.11 のあと福島へも。これまで私なりに考えてきた「地震への備え」について述べてみたいとの思い。

思いばかりでまとまらない話でしたが、会場からの質問もあり、休憩をはさんでの討論も楽しい時間でした。

3. お礼

開催にあたり、山本雅彦氏には会場の準備、音響、オンライン環境等大変お世話になりありがとうございました。またシンポジウムを準備された木綿事務局長はじめ石川支部の皆様にお礼申し上げます。終了後の懇親会には山本先生と私も参加し、楽しい時間を過ごしました。来年は富山で開催とのこと、富山支部の皆様よろしくお願いいたします。

(藤野間 幸英)

支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論

◆時事評論、意見・見解

◆活動報告・経験報告・事例紹介

◆行事案内、会員への案内・お知らせ

その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp
ogura@u-fukui.ac.jp

[土竜時評] PFAS（ピーファス）ってなに？

報道から見るジャーナリズム批評（その5）

5月10日の福井支部総会の畑明朗氏の記念講演「PFAS 汚染を考える」を興味深く聴かせてもらった。評者は、残念ながら PFAS については殆ど知識がない。コロナ禍前に、たまたまネットで、焦げ付かないフライパンに使われているフッ素樹脂コーティング材料は健康に問題があり新しい素材が使われている、と紹介する記事を見た。実は、評者のパートナーが、何年も使っているフライパンが焦げ付くようになったので買い換えたいと言ったのがきっかけで、ネット経由で PFOA（ピーフォア）という耳慣れない語を知ったのだった。

PFAS は、PFOA や PFOS などの有機フッ化化合物 5000 種以上の総称で、熱に強い「油」である。フライパンのコーティング剤（商品名テフロン）や泡消火剤などに広く使われている。非常に安定した化学物質で、数千℃を超えでないと分解せず、環境に極めて長期に渡って安定して残留するため「永遠の化学物質」などと呼ばれている。摂取すると体内にほぼ永遠に残り、様々な障害を起こすという報告も多数ある。

ところで、コロナ禍の時期にたまたま見た探査報道を基本とする Tansa のサイト¹⁾で、大阪・摂津のダイキン工業が PFOA を大量に用水に排出し、その水が田畑の農業用水として使われ、京大の医師達の協力を得て近隣の多くの住民の体内に残留していることを告発していた。PFAS はやっとコロナ禍ころに欧米で製造が禁止され規制基準が設けられて法規制が始まった。日本でも 2021 年には規制基準を設けたが、欧米の基準には遠く及ばない状態で、規制体制も非常に緩い。その後は国内の大手マスメディアも触れてはいたが、「報道」というよりは「記者クラブ」や「番記者」による「発表記事」に近い。Tansa の PFOA シリーズ記事に依れば、摂津のダイキンを巡っては地元メディアもその時期にはほとんど報じなかった。維新の大阪府政はほぼ無策、摂津市もほとんど意味のある対応をしなかった。Tansa でダイキンの PFOA 環境汚染を担当・追及していた若い

メンバーが『終わらないPFOA 汚染 公害システム温存のある国で』²⁾ を昨年上梓、住民側からの視点と研究者の活動を詳細に示していた。

その後、岩波ブックレットの『永遠の化学物質 水のPFAS汚染』ジョン・ミッチェル、他 著³⁾ を読む機会があった。PFASが原爆開発に関連して作られ、その抜群の熱耐久性から軍備や機械にも使われ、1970年ころから様々な日用品にも拡大、そして環境に残留、様々な動物実験や生体調査も行われたが、隠蔽され公表されなかったという。これを知って非常に驚いた。日本でも全国の米軍基地から大量に漏出して環境汚染を引き起こしていたが、これを積極的に報じたのは、ネットで見た沖縄の地方紙やしんぶん赤旗など米軍や防衛省に忸度しないメディアだった。

畑氏の総会記念講演で紹介された膨大な資料にはいくつかの全国紙の記事や資料なども掲載されていたが、畑氏が地域住民とともに取り組んで明らかにしてきたことはもっとマスメディアが取り上げるべきだったのだ。日本では、緩い米国の基準よりはるかに緩い基準すら支える行政組織が機能していない。トランプ米大統領はネットメディアにおけるファクトチェックは「言論の自由」の弾圧だと主張し、効率化省「DOGE」を率いたマस्क氏はXでのチェック機構を廃止した。このチェックには膨大なマンパワーと時間と「経費」が費やされるから、まさに「効率化」の入り口だっ

たのだ。確かに日本語でも漢語「自由」の原義は「きままに」で、福沢諭吉によるlibertyの誤訳という話もあるが、しかしlibertyやfreedomも同様で、現今における概念のために作られた語ではない。たかだか200年余り前のフランス革命で「自由と平等」の標語として新しい概念を付与され、その後の社会発展のなかで概念も進化・発展し、LGBTQ、DEI、SDGsなどの新しい概念も付与されてきたのだ。「言論の自由」の進化・発展の歴史は逆風との闘いの連続で、それはこのPFAS汚染を巡っても同様である。それは現在も未来にも、続いてきて続いていく、のだから、ジャーナリズムは、近代社会の第4の権力として、さまざまな立場があると思うが、その概念や意味を深め・高め、発展させていく責務があると思う。

畑氏の講演で、頓珍漢ではあるが、このような思いを深めた。

(土竜 百間)

1) <https://tansa.jp/org/investigativejournal/>

Tansaは、元朝日新聞記者が御用達報道から脱却し「探査報道」のために設立した「ワセダクロニクル」を前身とするネットジャーナリストの集団

2) 『終わらないPFOA 汚染 公害温存システムのある国で』 中川七海 著、旬報社 2024/10/10

3) 『永遠の化学物質 水のPFAS汚染』ジョン・ミッチェル、小泉昭夫、島袋夏子 著、阿部小涼 訳、岩波ブックレット 2020/8/4

支部ニュースへの寄稿・投稿のお願い

- ◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論、時事評論、意見・見解、活動報告・経験報告・事例紹介 など
- ◆行事案内、会員へのお知らせ、エッセー、書評、作品の紹介など

ogura@u-fukui.ac.jp

<<編集後記>>

2025年度支部ニュース第1号をお届けします。

トランプ大統領は、留学生をターゲットにして、ハーバード大学に対する前代未聞の締め付けを始めました。ハーバード大学は、歴代の大統領を多く輩出した対英独立戦争前からの名門で、良くも悪くも米国の象徴的存在でした。ところで、論理的には「イスラエル政府批判」は「反ユダヤ主義」であるという「論理」は、たぶん古代の「ギリシャ哲学」でも成立しませんし現代論理学でも成立しないでしょう(AIならさせる?)。トランプ氏の「新しい論理」が世界で通用するには程遠い、と思いたいのですが、日本国内でもこれに近い妙な「論理」が、「学術会議」を巡って政府筋や「学問の自由」嫌いの政治屋たちから、ダダ洩れです。これに絶望ばかりしてはおれませんが・・・。

(OG.)

